

はじめに

2025年の春、私は中国から日本の山口県に交換留学生としてやって来た。来日前、山口県という地名はあまり馴染みがなく、どんなところなのか想像もつかなかった。しかし、この一年間の生活を通して、私は山口の自然の美しさ、食文化の豊かさ、人々の温かさ、そして中日両国の文化的な違いについて、深く感じ、考えるようになった。本レポートでは、この一年間の山口県での生活とその感想について、風景、食べ物、人との関わりなどを中心に、中日比較も交えながら述べていきたいと思う。

食文化の違いと魅力

山口県は海産物が非常に豊富で、特にふぐ料理が有名である。私は初めてふぐ刺しを食べたとき、その食感と繊細な味に驚いた。中国ではふぐはあまり一般的な食材ではなく、食べる機会がほとんどないため、とても新鮮な体験であった。また、うに井や瓦そばなど、山口ならではの郷土料理も試し、地域に根ざした食文化の奥深さを感じた。一方、中国の食文



化も非常に多様で、地域によって味付けや食材の使い方が大きく異なる。例えば、四川省では辛い料理が多く、香辛料を多く使う傾向がある。それに対し、日本の料理は素材の味を活かすような調理法が多く、最初は物足りなさを感じたが、慣れてくるとその繊細さや季節感に魅力を感じるようになった。また、食事のマナーについても日中で違いが見られた。日本では「いただきます」や「ごちそうさまでした」といった言葉を大切にし、食に対する感謝の気持ちが表現される。中国でも食事を大事にする文化はあるが、言葉で表す機会は少なく、文化的な違いを感じる一面であった。

寮生活や一人暮らしの体験

私は留学中、大学の留学生寮に住んでいた。部屋は個室で、キッチンやお風呂は共用だったが、清潔に保たれており快適だった。ルームメイトや他の留学生とは英語や日本語でコミュニケーションを取り、お互いの文化について語り合うこともできた。また、自炊をする機会も増え、日本のスーパーで買い物をする中で、食材や商品の種類、包装の丁寧さにも驚い

た。中国の市場では対面販売が多く、価格交渉などもあるが、日本では価格が明示されていて安心感がある。

交通・移動手段の違い

日本での生活では、移動手段として電車やバス、自転車を主に利用した。山口県は地方であるため電車の本数は限られているが、その分、時間に正確で安心して利用できた。特に驚いたのは、時刻表通りに運行されることと、乗客が静かに過ごしている点である。中国の都市部では地下鉄が発達しており、時間も比較的正確だが、車内はもつとにぎやかな雰囲気である。



一方、日本では地方でも交通網が整っており、地域住民の生活を支えていることに感心した。また、交通マナーが良く、乗り降りの際の順番や譲り合いの精神なども印象に残った。

留学生活で感じたこと・得たこと

この一年間、私は言語の壁や生活習慣の違いに戸惑いながらも、多くのことを学び、経験することができた。最も大きな収穫は、自分の視野が広がったことである。日本と中国という二つの文化を体験することで、自国を客観的に見つめ直す機会にもなった。例えば、日本の公共の場でのマナーの良さや、時間に対する厳しさは非常に印象的だった。電車が時間通りに来る、ゴミの分別が徹底されている、公共の場で静かに過ごすといった習慣は、中国ではまだ十分に浸透していない部分でもあり、私自身も生活態度を見直すきっかけとなった。一方、日本の社会はルールが多く、人間関係も慎重すぎるあまり、時には息苦しさを感じる場面もあった。中国ではもつと自由で柔軟な対応が多く、それぞれに良い面と課題があると感じた。

日本での学びと学内生活

山口県立大学での授業は、少人数で行われることが多く、先生との距離が近いのが印象的だ

った。中国の大学では講義形式で一方的に話を聞く授業が多かったが、こちらでは学生が積極的に発言することが求められる。最初は発言に自信がなかったが、先生やクラスメートのサポートのおかげで、徐々に発言することに慣れてきた。また、授業以外にも日本語のサポートクラスや国際交流イベントがあり、勉強だけでなく人とのつながりも得ることができた。キャンパス内の図書館やカフェも利用しやすく、静かで落ち着いた雰囲気の中で集中して勉強することができた。これは中国のキャンパスとは違った魅力であり、学習環境の大切さを実感した。

おわりに

山口県での一年間の生活は、自然や食、地域の人々との交流を通して、私にたくさんの気づきと学びを与えてくれた。文化の違いに戸惑うこともあったが、それ以上に違いを乗り越えることで得られる喜びや成長があった。日本での留学経験は、私のこれからの人生において、かけがえのない財産となるだろう。山口県という地で出会ったすべての人々、体験、風景に心から感謝したい。

